

# 西伯郡小学校教育研究会 情報教育部会

## 1 本年度の取り組み

### (1) 部員研修会

と き 平成25年8月2日(金) 13:30~16:40  
ところ 湯梨浜町役場 講堂、会議室  
内容等 鳥取県小学校教育研究会情報教育部会夏季研修会講演会、西伯郡情報交換会  
参加者 西伯郡内参加 14名

#### ① 講演「子どもを取り巻くソーシャルネット事情と大人の役割・学校の役割」

講師 倉吉市立社小学校情報教育主任 田中靖浩 教諭

講演の概要は、「大人が知るべきこと」「学校の役割」という内容であった。

「大人が知るべきこと」は、ライン等の使用により子ども達の時間の過ごし方が、変容しつつあるということ認識し、適切に使用する指導を進めるという内容であった。その中で、ネットによるいじめは、大人が一緒になって解決にあたること、また、現在及び今後の所持率に伴い、ネットリテラシー等の正しいスキルが必要であることを大人として指導すべきということであった。「学校の役割」は、主に、ICTを積極的、主体的に活用していく子どもの育成と使用状況等の実態把握を行うという内容であった。それによって、年計の見直しも必要になってくること。情報教育の目標を確認して、情報モラルの指導については、低中高学年の発達段階に応じた目標を立てること。「情報モラル」「情報モラルの指導内容」については、文科省及び指導要領の総則編に示されており、指導においては「情報モラル教育実践ガイドダンス」、「情報モラル指導カリキュラムチェックリスト」、情報モラル教材「ネット社会の歩き方」等を活用するとよいという示唆があった。また、保護者とのかかわりは、児童に情報モラル教育を進め、児童と保護者(家庭)とが相互にかかわりあえるようにしていくこと。問題が発生した時の対応は、まず、状況把握を的確に行い、対応として関係機関への連絡・相談を行うようにするという内容であった。

#### ② 西伯郡部会情報交換会

講演の内容から西伯郡参加各校の実態について話し合った。メディアとの付き合い方に問題がある、マナー面に不安があり、高学年には実践的な指導が必要、親の責任だけを問えない、学校での指導が必要、児童への実態把握を行い、各校の実態に応じてPTAも巻き込んだ計画的な指導が必要等の意見が出された。

## 2 成果と課題

子どもを取り巻く最近の各校の状況について情報交換をする中で、各校の実践を知ることができた。また、学校での実態把握とその状況に応じた指導の必要を確認した。今後、各校において状況の把握に応じた実践が進められるのではないかと考える。

(毛利邦彦)